

平成30年度京都市中丹地域戦略会議開催結果（第3回概要）

1 日 時 平成31年3月19日（火） 15時00分～17時00分

2 場 所 京都市綾部総合庁舎 第1会議室

3 出席者

【委 員】出席8名（欠席4名）

【オブザーバ】各市企画担当課長

【中丹振興局】野村局長、小林副局長、福井企画総務部長、常盤健康福祉部長、
嵯峨根農林商工部長、木村建設部長、山口港湾局港湾企画課長、
木崎中丹教育局次長 他

4 主な意見等

《地域の将来像、施策推進の基本的な視点》

- ・人口推計では生産年齢人口が重要な指標であるが、地域の将来を考えていくにあたっては全国との比較や3市ごとの内訳も示すとよい。
- ・観光や原子力防災など広域の対応が必要なものは、中丹地域だけでなく丹後地域や兵庫県・福井県も含めて考えるべき。

《教育、ふるさと教育、子育て》

- ・子どもや若者の地域を愛する心を育む取組を学校と連携して進める取組について、京都府の職員が学校に出向いて出前授業を実施することなどを具体的に盛り込んではどうか。
- ・保護者が地元により企業があることを知らないのので、保護者への啓発が必要。
- ・「安心して子どもを産み・育てることができる環境整備」として、この地域で青少年の健全育成に力を入れてはどうか。
- ・初等中等の良好な教育環境をつくり、他府県から親や子どもが集まってくるような地域にしていってはどうか。
- ・定年前後にUIターンで帰ってきて、農業とそれ以外の仕事と年金とで生計を立てられるような人生設計ができるとうい。
- ・高齢者が学習できる機会や、高齢者が子どものいじめの監視をするなどして高齢者と子どもが接点を持つ機会があるとよい。

《中小企業》

- ・中小企業が減って働く場が少なくなり、若者が中丹に残ることが困難になることを懸念している。輸送コスト・時間を削減するため、大企業の立地の近くに工場を移転する中小企業が増えていると聞いている。
- ・中小企業は人材不足に悩んでいることが多く、人材が確保できないから潰れていくと認識している。求人と求職をマッチさせる仕組みを十分に機能させる必要がある。
- ・企業の魅力や強みを学生に伝え、どんな能力を身につければ地元で活躍できるのか、というキャリアパスをしっかりと伝えていくことが重要。
- ・後継者不足で廃業される企業が多い。人手不足については、工業団地の大企業が求人を出しても応募がなく、中小企業は更に厳しい状況にある。

- ・ 中小企業の大きな悩みは事業継承であるという実態が商工会議所の調査でも浮き彫りになってきた。北部産業創造センターの利活用として、事業者同士のマッチングにも取り組まれない。

- ・ 数値目標「新規開業件数」について、事業を立ち上げるのは比較的簡単であるが、継続することが難しい点にも考慮する必要がある。

《農林水産業》

- ・ 「儲かる農林水産業」という打ち出しは非常に重要であるが、20年後に中丹に住もうとする若者は、儲けることが全てという考え方にはない人もいるのではないかと。小規模でも生業を守っていきこうとする「そこそこ」儲かるような暮らし方も支援していくことが必要ではないか。

- ・ この地域で農林水産業が勝ち残っていくためにはイノベーションが必要であり、樹皮や楮の白木など未利用資源の活用を考えていくことも重要。

- ・ 水産業の要素も充実させてほしい。

- ・ 農林水産業で「儲かる」要素を大々的に打ち出していくべき。企業はブランディングが命であり、そこに誇りを持って働く人が集まってくる。魅力をつくって若者が定着するという流れをつくる必要がある。

《観光》

- ・ NHK大河ドラマ「麒麟がくる」と連動した誘客プロモーションは、放映終了後も誘客が持続することとあわせて、地域内を周遊できるような対策が必要。

- ・ 農観連携では、中丹東農業改良普及センターと連携し、年間を通じて食の加工体験などができるようにカレンダーづくりを進めている。食・ものづくり・都市農村交流などを通じた地域の魅力発信に加えて、農産加工などビジネスとして成り立つ仕組みづくりに公民連携でしっかり取り組む必要がある。

- ・ もうひとつの京都など観光プロモーションでは、地域のいいところを見つけて上手に宣伝する必要がある。

- ・ インバウンドについて、先日大江山グリーンロッジでは、ヨーロッパの様々な国籍の外国人20人が1週間滞在し、大江山や京都市方面、丹後方面など訪れたと聞いている。宿泊費や食事代が非常に安いというのをもっと宣伝してはどうか。城崎温泉の成功事例も研究してはどうか。

- ・ 白川郷には年間167万人の観光客が訪れるが、平均滞在時間が40分とのこと。府内でも宿泊施設が少ない観光地では入込客が多いのに消費額が少ない状況が起こっている。観光は地方でも可能性を持っているが、量より質を考えていく必要がある。

- ・ 量の問題については、地元で生活する人たちが悪影響を受ける「オーバーツーリズム」がバルセロナやベネチアなど世界中で起こっており、観光客数の増加に対応するしっかりしたマネジメントが求められている。

- ・ クルーズ船についてはセカンドステージに入ったと認識。地元にお金を落とす仕組みをつくり、一過性に終わらないようにすることが重要。また、地域住民と乗客との交流があってこそ満足度を高めることになる。この地域に訪れるべき特別な理由を考える必要がある。

《京都舞鶴港》

- ・舞鶴港は大阪をはじめ近畿圏に貢献できる港としてその役割を果たしていくことが重要であり、しっかりとクローズアップする必要がある。
- ・メタンハイドレート開発やLNG基地は、南海トラフ地震の際に近畿圏をしっかりとバックアップする観点から重要な取組。
- ・京都舞鶴港のエコエネルギーポート化については、LNG基地のような広い敷地が舞鶴で確保できるのか等の条件を整備する必要がある。

《社会基盤整備》

- ・国土強靱化はハードではなくてソフト（人）が重要。
- ・退職者を補充できておらず公務員の土木職員が不足しており、40年後には1/5になると見込まれている。建設事業者も少なくなっている。
- ・森林作業道など可能なところはグリーンインフラ（コンクリートと対比して木材など自然資源による建設資材を使ったインフラ）を推進していくべき。
- ・20年後を見据えると、峠道をもうひとつのインフラとして捉えるようなこともあってよいのではないかと。峠道を集落と集落を結ぶ交流などに活用していくと山の異変にも気付きやすくなるだろう。
- ・無電柱化の推進は防災だけでなく魅力ある地域づくりや観光振興にもつながる。コストがかかるので一気には無理かもしれないが、20年後の地方都市の景観を良好なものにするためにしっかりと取り組まれない。

《災害対応》

- ・災害については、早期の復旧が重要。

《原子力防災》

- ・原発事故が発生すると自然や飲料水が汚染される懸念がある。原発事故に備えて万全の対策が必要。